

ユニオンファンド 月次レポート

第 119 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2018年10月4日作成

MONTHLY TOPIC

新しい決算期に向けて

お蔭様でユニオンファンドは去る10月1日に第10期の決算を迎えることができました。基準価額は結局ほぼ横ばいにとどまりましたが、弊社が積極的にお勧めしている「つみたて投資」をはじめとしてお客様のご購入は毎月続き、口数、純資産ともにこの1年で13%弱の増加となりました。値動きが大きく、運用成績の足踏みが続いた中で着実に資産を積み増してくださったことに、改めてお礼を申し上げます。

苦難の前期を振り返る

詳しくは運用報告書で述べますが、終わった第10期についてここで簡単に振り返ってみたいと思います。基準価額は前の期末(2017年10月2日)に比べ0.2%の下落で終わりました。今年1月までは世界景気の同時拡大、大規模法人減税による米国企業の大幅増益などを追い風に、順調な値上がりが続きました。

しかし、1月下旬に株価は突如大幅な反動安に見舞われました。楽観的な見通しで買われ過ぎていたところに、人気を集めていた投資商品などが変調をきたしたためです。また、米国ではリーマンショック以来続いた大規模な金融緩和が転換し、政策金利の引き上げが続いたことも株価には重荷となりました。ただ、米国に関しては、世界的に最も経済状態が良好との見方から資金流入が続き、株価は堅調に推移しました。

3月には米国トランプ政権が保護貿易主義を前面に掲げ、特に中国との間で摩擦が一気に強まりました。前年の好調の反動に加え、保護主義を警戒した投資手控えなどの動きもあって、世界経済はじわじわと減速していきました。安全かつ成長性も高いとしてドル資産を買う動きはさらに強まり、一方で、ドル高によってドル建て債務の重荷が増大するとの警戒感などから、いくつかの新興国は一層の通貨安に見舞われる悪循環に陥りました。通貨防衛のため利上げを行った国をはじめとして、景気の悪化懸念から多くの新興国で株価も軟調に推移しました。

ユニオンファンドの基準価額が横ばいで終わったのも、期中で最も高い組み入れを続けたコムジェスト EMF が新興国への逆風を受けて値下がりしたことによるものです。

逆境をチャンスに

ユニオンファンドにとっては実に厳しい1年でしたが、強がりではなく私はこれを大きなチャンスととらえています。過去を振り返りますと、市況も基準価額も好調と不調を繰り返しながら、長い目で見れば上昇してきました。お客様におかれましても、将来の資産づくりのために今は口数をためる時期と、前向きにお考えいただければと思います。今期も全力で運用に当たりますので、よろしく願いいたします。

代表取締役 運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

ユニオンファンド運用状況

(2018年9月末現在)

基準価額

24,798 円

純資産総額

64 億 51 百万円

期間別騰落率(%)

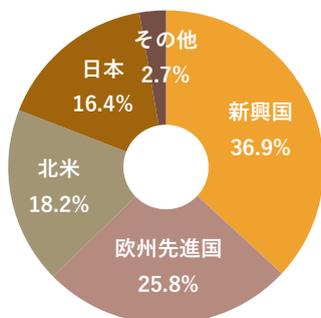
1 ヶ月	0.87%
6 ヶ月	1.27%
1 年	-0.75%
3 年	25.38%
5 年	38.91%
設定来	147.98%

複利年率(%)

9.56%

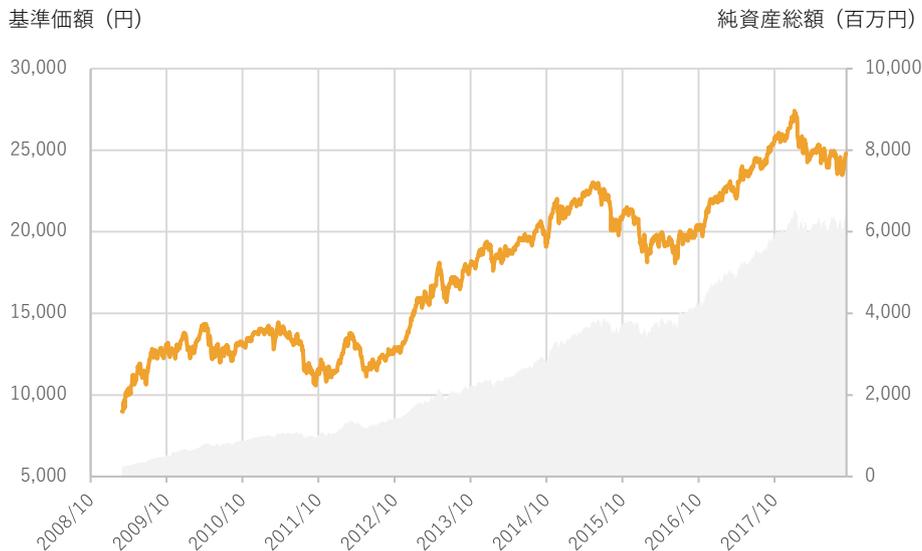
*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率
(2018年8月末現在)

基準価額と純資産総額の推移



組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	7.0%	3.9%
スパークス F	日本	7.5%	1.1%
キャピタル F	欧米	14.2%	2.2%
ハリス F	欧米	21.1%	-0.1%
コムジェスト・ヨーロッパ F (SA/90)	欧州	6.5%	0.1%/0.4%
コムジェスト・エマージング F (SA/95)	新興国	36.2%	0.9%/0.9%
現金等	-	7.5%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

コムジェスト・ヨーロッパ F、同エマージング F：2本のベビーファンドの各騰落率を表示

ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

2018年9月の市場動向と運用状況

投資環境と基準価額の推移

9月の世界の市場は、前半下落、後半上昇という展開でした。前半の下落は、米国とカナダの貿易交渉が不調だったことを受けて保護貿易主義が改めて警戒されたことが主な要因です。また、新興国では、景気後退入りした南アフリカをはじめとして、引き続き経済状況が悪化していることが投資家の手控えを招きました。

中旬には、前月に市場の混乱を引き起こしたトルコで大幅な利上げが発表され、市場のムードは一変しました。トルコでは、インフレが進行しているにもかかわらず、大統領からの圧力で必要な利上げが行えないのではないかと懸念されていました。しかし、市場の予想を上回る大幅な利上げを受けて、中央銀行の独立性は維持されているとの安心感が広がり、それまで売り込まれてきた多くの新興国通貨も回復に転じました。

株式市場では、日本株が大きく値上がりしたのが目立ちました。円安が進んだことがきっかけですが、利益水準から見て元々かなり割安だったことが大幅高の背景と考えられます。ただ、世界的に景気は減速傾向を強めており、業績予想も下方修正が優勢となっています。唯一と言っていいくらい好調だった米国でも、企業業績の伸びが鈍りつつある模様です。こうしたことから、株価は一部で高値を更新したものの、全体としては前月末並みの水準を回復するにとどまりました。

ユニオンFは、上旬に今年の最安値まで値下がりしましたが、その後は日本株の値上がりや、新興国の株価・通貨の回復などにより、前月末に比べ若干値上がりして終わりました。ファンド別には、さわかみFが大きく値上がりしたほか、コムジェストEMFが市場をかなり大きく上回るパフォーマンスとなったことが寄与しました。

運用の状況

コムジェストEMFの買い増しを行いました。月末時点の全体の組入比率は92.5%と、8月末とほぼ同水準でした。

今後の見通しと運用方針

米国とカナダの間で貿易交渉が妥結し、米国の姿勢が強硬一辺倒でないと示されたことはプラス評価できますが、中国との間での緊張は続いています。今後も貿易問題が市場に与える影響は大きそうです。足元ではイタリアの財政赤字の問題がぶり返しており、政権内部からはユーロ離脱をにらませる発言も再び飛び出しました。英国のEU離脱交渉も最終局面を迎えて波乱含みです。そもそも、世界の景気減速のもたらす企業業績への悪影響や、米国の金融引き締めの影響などは、いつでも市場の波乱要因になり得ます。このように懸念材料は少なくありませんが、それはいつものことでもあります。

米国への資金の一極集中が年初から続きましたが、今後減税効果が薄れるにつれ、状況は変わっていくと思われる。先月の日本株と同様に、出遅れている欧州や新興国の株価・通貨が反発する可能性は小さくないでしょう。こうした点も踏まえ、市場の軟調場面を中心に割安な市場に投資するファンドの買い増しを続けていく方針です。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

さわかみファンド

基準価額の推移



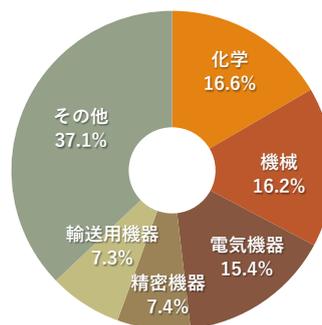
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 日本電産	5.0%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
2 花王	4.1%	日本	化学	トイレット紙首位
3 プリヂストーン	3.9%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
4 ダイキン工業	3.7%	日本	機械	エアコン世界首位
5 浜松ホトニクス	3.0%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
6 テルモ	3.0%	日本	精密機器	医療機器 (カテーテル)
7 国際石油開発帝石	3.0%	日本	鉱業	石油メジャー
8 TOTO	2.8%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器首位
9 信越化学工業	2.6%	日本	化学	塩ビ・シリコンエー世界大手
10 トヨタ自動車	2.5%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
上位10銘柄	33.6%	現金等	11.6%	

業種別構成比



※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年9月末現在>

スパークスF (スパークス・集中投資・日本株ファンドS)

基準価額の推移



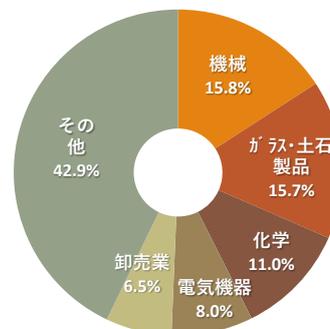
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド) ※組入比率の記載はなし。証券コード順。

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
バリューコマース	—	日本	サービス業	Yahoo子会社。インターネット広告等
シップヘルスケアHD	—	日本	卸売業	医療機器・設備
日本電気硝子	—	日本	ガラス・土石製品	ディスプレイ用ガラス等で世界大手
MARUWA	—	日本	ガラス・土石製品	セラミックス基板世界トップ
フジクラ	—	日本	非鉄金属	電線大手。光ファイバー世界3位
三浦工業	—	日本	機械	産業用小型ボイラー大手
日本信号	—	日本	電気機器	鉄道信号日本1位
エフビコ	—	日本	化学	食品トレイなど容器の大手
デサント	—	日本	繊維製品	スポーツウェア・用品大手
トーセイ	—	日本	不動産業	不動産流動化・開発・賃貸等
現金等			6.7%	

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年8月末現在>

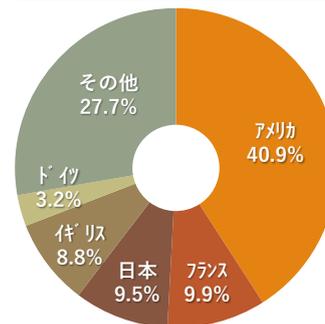
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

キャピタルF (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ)

基準価額の推移



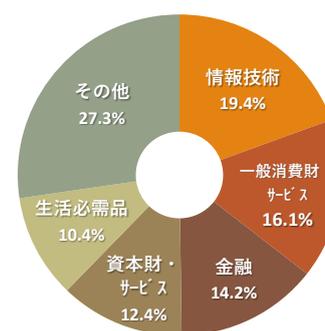
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Airbus	2.0%	フランス	資本財・サービス	世界有数の航空機メーカー
2 Alphabet	1.8%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
3 Pernod Ricard	1.7%	フランス	生活必需品	アルコール飲料、食品
4 Ocado	1.7%	イギリス	一般消費財・サービス	世界最大級のオンライン・スーパー
5 GoDaddy	1.6%	アメリカ	情報技術	ドメイン登録、レンタルサーバ
6 ASML	1.5%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
7 Microsoft	1.4%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピュータ・ソフト
8 AIA	1.4%	香港	金融	生保・金融サービス
9 Visa	1.4%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
10 Seattle Genetics	1.4%	アメリカ	ヘルスケア	癌治療薬等の研究開発
上位10銘柄	15.9%	現金等	5.2%	

業種別構成比



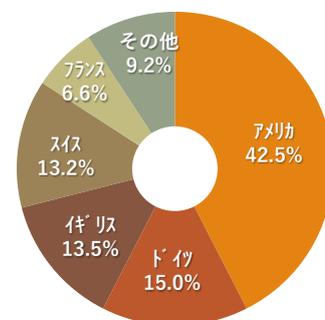
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年8月末現在>

ハリスF (ALAMCOハリス グローバルバリュー株ファンド2007)

基準価額 (分配金込み) の推移



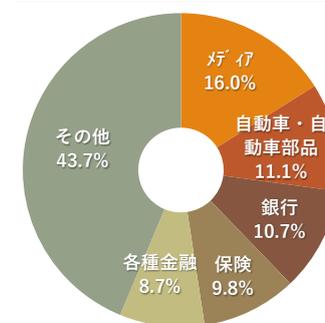
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 DAIMLER	5.2%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
2 BNP PARIBAS	5.1%	フランス	銀行	フランス大手銀行
3 GLENCORE	4.3%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
4 CNH INDUSTRIAL	4.3%	オランダ	資本財	農機・建機メーカー
5 ALLIANZ	3.9%	ドイツ	保険	総合保険大手
6 CREDIT SUISSE	3.8%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
7 ALPHABET	3.8%	アメリカ	ソフトウェア・サービス	グーグルの持ち株会社
8 CHARTER COMMUNICATIONS	3.5%	アメリカ	メディア	ケーブルテレビ、携帯電話
9 AIG	3.1%	アメリカ	保険	総合保険大手
10 NASPERS	3.0%	南アフリカ	メディア	中国TENCENTの大株主
上位10銘柄	40.0%	現金等	3.7%	

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の24産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年8月末現在>

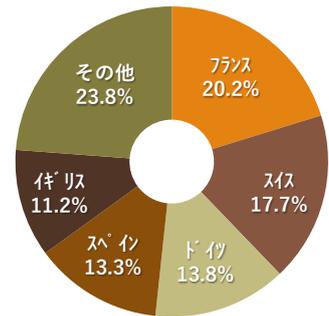
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

コムジェスト・ヨーロッパF (ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA) (コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90)

基準価額の推移



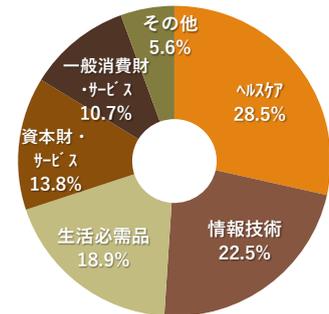
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 AMADEUS	6.9%	スペイン	情報技術	旅行予約システム
2 INDITEX	5.8%	スペイン	一般消費財・サービス	アパレルメーカー
3 ESSILOR	5.3%	フランス	ヘルスケア	光学製品
4 COLOPLAST-B	4.7%	デンマーク	ヘルスケア	人工肛門世界大手
5 SAP	4.5%	ドイツ	情報技術	ビジネス向けソフトウェア大手
6 HEINEKEN	3.8%	オランダ	生活必需品	ビール生産世界大手
7 WIRECARD	3.8%	ドイツ	情報技術	オンライン決済
8 SARTORIUS STEDIM	3.4%	フランス	ヘルスケア	ウイルス除去フィルター
9 LINDT & SPRUENGLI	3.3%	スイス	生活必需品	チョコレートなどの食品・飲料
10 ASSA ABLOY B	3.3%	スウェーデン	資本財・サービス	鍵等のセキュリティシステム世界最大手
上位10銘柄	44.6%	現金等	5.0%	

業種別構成比(マザーファンド)



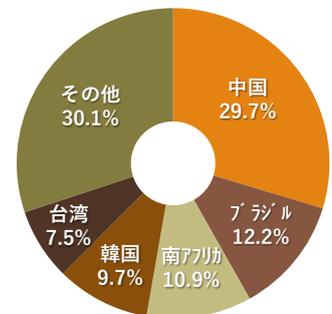
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年9月末現在>

コムジェスト・エマージングF (ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA) (コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド95)

基準価額の推移



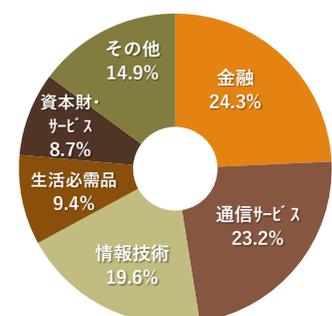
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC ADR	7.3%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 PING AN INSURANCE	5.3%	中国	金融	保険大手
3 BAIDU ADR	3.8%	中国	通信サービス	検索エンジン世界2位
4 COGNIZANT TECHNOLOGY	3.6%	アメリカ	情報技術	ITに受託拠点を置くIT会社
5 NETEASE ADR	3.6%	中国	通信サービス	オンラインゲーム
6 FOMENTO ECONOMICO	3.3%	メキシコ	生活必需品	飲料、コンビニチェーン
7 CHINA LIFE	3.3%	中国	金融	生保国内最大手
8 SAIC MOTOR	3.1%	中国	一般消費財・サービス	国内大手自動車メーカー
9 NASPERS	3.1%	南アフリカ	通信サービス	メディア。中国TENCENTの大株主
10 SANLAM	3.1%	南アフリカ	金融	アフリカの保険大手
上位10銘柄	39.5%	現金等	2.6%	

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年9月末現在>

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

NOTICE

業務管理部からのお知らせ

取引残高報告書について

今回、「平成 30 年 7 月～9 月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

- ※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1 年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

記載対象期間内にお取引された明細および作成日現在のお預り金の残高です。

- ※ 最後に表示される「お預り金」につきましては、“作成日現在”でユニオンファンドの買付が完了していない場合にはその金額が、完了している場合には「0 円」が表示されます。

「お預り証券等の残高明細」の見方

お預り証券等の残高明細（イメージ）

銘柄名	数量	評価金額合計 [a]	運用損益[a-b+c]	円
	基準価額	投資金額 [b]	※a,b,c 及び運用損益は全預り通算で算出	
(預り区分)	評価金額	受取金額 [c]		
(決算日)	取得単価	個別元本		

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成日（平成 30 年 9 月 28 日）現在の基準価額です。
評価金額	作成日現在の残高の「評価金額」です。 （「評価金額」＝「数量」×「基準価額」÷10,000 で算出されます。）
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計 [a]	評価金額の合計です。
投資金額 [b]	ご購入された金額の累計です。 ※ 相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額 [c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成日現在の運用損益です。 「運用損益」＝「評価金額合計」－「投資金額」＋「受取金額」

ご不明な点がございましたら、弊社業務管理部（TEL:0263-38-0725）までお問い合わせください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

RISK AND FEE

ユニオンファンドのリスク・手数料

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

申 込 手 数 料 お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

換 金 手 数 料 ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

信 託 財 産 留 保 金 信託財産留保金はありません。

信 託 報 酬 純資産総額に年 0.864% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの信託財産より控除されます。
[*実質的な信託報酬：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3% (概算)]
* 『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めた率です。
目安であり、組入状況により変動します。

そ の 他 の 費 用 上記のほか、次の手数料・費用等が当ファンドの信託財産より控除されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税等相当額の費用を含みます)
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用(監査費用)(消費税等相当額を含みます)

※ 監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。